令和２年度　校内研究計画　　佐賀市立勧興小学校

１　研究主題　　自分の思いや考えを伝え合うことのできる児童の育成
～国語科における主体的に学ぶための指導法の工夫～

２　主題設定の理由

⑴ 今日的な課題から

近年，生産年齢の人口の減少，グローバル化の進展や，絶え間ない技術革新などにより，社会構造や雇用環境は大きく変化し，予測が困難な時代となっている。さらに情報化の進展に伴い，特に子供にとって言葉を取り巻く環境が変化する中で，読解力に関して改善すべき課題が見え始めている。また，人工知能（ＡＩ）の飛躍的な進化により，これからの社会にはより一層の対人的能力の向上が求められている。これらの社会の変化に伴い，新学習指導要領の国語科では，「言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して資質・能力を育成することを目指す」と教科の目標で示している。

⑵ 本校の教育目標から

本校では，「豊かな心で勧興魂の実現をめざす児童の育成」の教育目標のもと，自ら学ぶ意欲のある児童，豊かな人間性を身に付けた児童，健康で明るい児童の育成を指導の重点として取り組んでいる。「勧興魂　勉強はベストをつくし運動はくたくたになるまで」という合言葉を共有し，一人一人が最後まで諦めず，精一杯学習に取り組む姿を求めて教育活動を進めている。

⑶ これまでの研究と児童の実態から

本校では，平成２９年度より３年間，体育科の「体つくり運動」についての研究を行ってきた。体育科の研究を通して，児童が主体的に運動に親しむ姿が見られた。さらに，児童がかかわり合いを重ねることで，友達からのアドバイスを聞いて動きに取り入れたり，動きに工夫を加えたりすることができ，お互いの動きの質を高め合うことに繋がった。昨年度は，「かかわり合い」に重点を置き，さらに主体的・対話的に運動に親しもうとする児童の育成を目指して研究を行った。その結果，他者との学び合いを通して，運動のよさや楽しさ，面白さ等学びの価値に気付くことのできる児童が増えてきた。

今年度は，国語科の授業を中心に「伝え合う力」の更なる向上を図っていく。しかし，児童がお互いに考えを伝え合うためには，まず，個々に考えをもつ必要がある。十分に思考を巡らせた内容でないと，「誰かに伝えたい，友達の考えを知りたい」ということには繋がらない。

更に，学習指導要領の改訂に伴い，身に付けるべき資質・能力が明確化され，国語科では，言語活動を通した学びが重要視されるようになった。教師の指導の仕方についても，大きな転換期を迎えている。

そこで，国語科の研究に移行した１年目は，児童一人一人がとことん教材と向き合い，自己の考えを形成したり，表現したりできるようになるための授業づくりを行っていく。職員全員の国語科に対する意識改革も目指して，言語活動を取り入れた指導に取り組んでいく。

また，毎年行っている特別支援部の自立活動の研究も継続して行っていく。個々の課題を明確にした上で改善していくための手立てを探り，友達とのかかわり合いを通して学び進められるような授業づくりを目指していく。

３　研究の目標

国語科において，児童が主体的に学ぶための指導法改善に取り組み，一人一人の学び方を育むことで，「伝え合い」の土台となる自己の考えを形成することのできる児童の育成を目指す。

特別支援学級の自立活動の授業において，個々の課題の改善に効果的な手立てを講じることで，進んで自己の課題の克服に向かおうとする児童の育成を目指す。

４　研究の内容と方法

⑴国語科の授業において，言語活動を取り入れた指導法の改善を図る。

①　学習指導要領の改訂に伴う，国語科の指導法改善について学ぶための研修会を行う。

②　言語活動を取り入れた授業実践を行う。授業研究会により，児童の実態に応じた指導方法の検討を行う。

⑵自立活動の授業において，課題に即した指導法の向上を図る。

①　児童の実態に応じて活動を取り入れた授業実践を行う。授業研究会により，児童の実態に応じた指導方法の検討を行う。

⑶児童の聞く態度，話す態度の向上を図る。

①　「話し方名人」「聞き方名人」の合い言葉を作成し，全校児童に浸透するよう取り組む。

⑷進んで伝え合いを行うために，児童間の関係性向上を図る。

①　月に１回程度，全校一斉の「つながりタイム」を実施し，友達と会話することの楽しさを感じられるようなエンカウンターを行う。

５　期待する研究の成果

- 研修会や授業実践を通して，全職員がこれからの国語科指導について，意識改革を行うことができる。
- 単元計画や学習課題を明確にし，言語活動を取り入れた授業を行うことで，児童が自ら課題解決に向かい，身に付けたい力の定着につながる。
- 自立活動の授業において，個々の課題について的確に分析し，児童にとって魅力的な活動を取り入れることで，自ら課題の克服に向かおうとする児童の育成につながる。
- 話し方・聞き方の基本態度を定着させることで，「もっと聞きたい，もっと話したい」という意欲を育むことにつながる。
- 友達と交流する中で，友達の考えを認め，言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を身に付けることができる。

６　研究の構想

学校教育目標

豊かな心で　勧興魂の実現をめざす　子どもの育成

勧興魂　～勉強はベストをつくし　運動はくたくたになるまで～

めざす学校像

子ども・保護者・地域と学ぶ、開かれた学校

・笑顔あふれる学校
・通いたい，通わせたい，勤めたいと実感する学校
・時間を大切にする学校

めざす子ども像

心身ともにたくましい子ども

○ 知：考える子
・進んで学ぶ意欲のある子ども
・納得するまでとことん学び続ける

○ 徳：明るい子
・相手の気持ちを思いやる子ども
・時間を守り、進んであいさつができる子ども

○ 体：たくましい子ども
・進んで体を動かす健康で明るい子ども
・困難に立ち向かう強い精神力のある子ども

基本方針【学力向上の推進】

○つけたい力を明確にした授業の実践
○知識・技能の定着
○学習規律の確立，家庭学習の充実
○自ら学び続ける授業への改善
○問題解決型学習の推進
○すき間読書の奨励

今日的な課題

・習得した知識及び技能の活用
・学習内容の伝達
・運動習慣の二極化
・体力の低水準化

児童の実態

・主体的に運動に親しむ姿
・他者との学び合いを通して，運動の価値に気づく児童の増加
・十分に思考を巡らせられない児童もいる

これまでの本校の研究

○算数科･体育科の授業研究
・伝え合い活動
・振り返り活動
・対話的な学びの高まり
・主体的に学習に取り組む児童の姿

国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）　日常生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

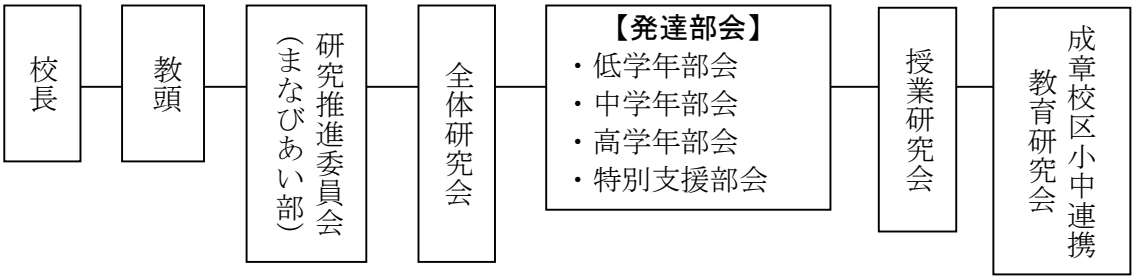
（２）　日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。

（３）　言葉がもつよさを認識するとともに，言語感覚を養い，国語の大切さを自覚し，国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【研究主題】

自分の思いや考えを伝え合うことのできる児童の育成
～国語科における主体的に学ぶための指導法の工夫～

7　研究組織



・　研究推進委員会は，校長，教頭，教務主任，研究主任，研究副主任，まなびあい部があたり，企画・立案・連絡調整を行い，研究推進の中心となる。

・　全体研究会は，全職員で組織し，全職員の共通理解，理論研究会，全体研究協議，問題解決のために開く。

【部会組織】　〇印は推進委員

低学年部	〇篠原，〇大串，村田，岡，〇遠藤，山田，岩本
中学年部	〇大坪明，内田，石﨑，松山，〇髙田，野中，大坪知，江頭
高学年部	〇戸高，〇八坂，塚原，今村，〇堤，行武，金田，帯屋

8　研究計画

	活動計画
一学期	〇本年度の研究の方針・研究主題・研究内容と方法・研究組織について検討 〇つながりタイムの検討（４月）実施（５／８～） 〇全校統一「話し方・聞き方の定型」の検討・掲示（５月中）
	〇授業実践・授業研究会日程調整（夏休み中） 〇学年グループによる指導案の検討（夏休み中） 〇指導案及び資料等作成
二学期	〇学年グループでの実践・授業研究会（２学期中） 〇全校授業研究会【講師招聘】…学年グループ各１本（２学期中） 〇特別支援部での自立活動授業実践・授業研究会（２学期中）
三学期	〇実践のまとめ（冬休み～１月） 〇研究のまとめ【成果と課題，研究冊子作成】（２月） 〇次年度について（３月）